

事案名	千葉県内の事案（千葉県 新規事案）
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「徒然なるままに」（元軍医少佐の手記）〔A 1〕 ・「大戦さいごの頃の思い出」（「陸軍軍医学校同窓会誌」第4号、平成6年）〔A 2〕 ・「『徒然なるままに』について」〔A 3〕 ・『袖ヶ浦町史 通史編 下巻』（平成2年）〔A 4〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A 5〕 ・「陸達第二十六号」（昭和19年4月6日）〔A 6〕
資料内容概要	<p>千葉県楢葉には、陸軍軍医学校の分室があり、学生実習用にイペリット・ルイサイト・ホスゲン等を保有していたが、これらは終戦後廃棄したとの同校関係者の証言がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元軍医少佐の手記には、教育施設を接收して設立した陸軍軍医学校楢葉分室に、訓練・演習用のイペリット・ルイサイト・ホスゲン等を保有していたと記されている〔A 1〕。 ・元軍医少佐の手記には、昭和18年に、陸軍軍医学校衛生学教室は、千葉県楢葉のキリスト教会を接收してイペリット・ルイサイト・ホスゲン等や防護のゴム長等に移し、同年夏から宿泊して毒ガスの教育を行ったと記されている〔A 2〕。 ・元軍医少佐によれば、毒ガスは教育用に僅かにあったとの証言がある〔A 3〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元軍医少佐の手記には、軍医学校の学生の毒ガス訓練並びに衛生演習を行うため学校を接收し、「軍医学校の毒瓦斯関係の資材を全部移した」が、昭和20年8月末に「毒瓦斯が見つけれられては大変だ」としてトラック2台で「イペリット、ルクサイト（ルイサイトの誤りと思われる）、ホスゲン等のドラム缶、ボンベ等三十本余りを積んで出発した。しかしどこにも捨てる場所がない。海にでも思ったが、五井の海岸は遠浅で舟で出ることにはできない。この処理には全く苦労した」と記されている。また、「終戦時私の保管していた瓦斯はドラム缶2ヶ大小ボンベ四、五十本あったが危険なので千葉県楢葉の軍医学校分室を作り、そこで学生に瓦斯の実習を行っていた。終戦後私はこの瓦斯を秘密裏に処分を命ぜられ非常に苦心したものである」ともあるが、いずれもどこに廃棄したのかは詳しくは記されていない〔A 1〕。

- ・元軍医少佐の手記には、終戦に伴い、「檜葉の瓦斯演習場にガスを置いておくと、戦犯になるから速やかに撤去せよとの命令を受け（キリスト教関係は接收が最も早く行われる）」、トラック2台に「ルイサイト缶（ドラム缶1ヶ）、イペリット缶（ドラム缶2ヶ）、ボンベ数本、ホスゲンその他20数本を積み、檜葉を出発した。どう処分すべきか考えたが、名案は浮かばない。まったく閉口した。その時数名の雇員が、瓦斯のために火傷を受けた」と記している〔A2〕。
- ・元軍医少佐によれば、毒ガスは終戦時（8月終わり頃）に処分するように話があり、イペリット・ホスゲンが人の半分位の高さの容器に少し入っていた。毒ガスの遺棄の場所については記憶がない。川に捨てたときに毒ガスの容器が浮かんでいたので、憲兵隊に連絡した。憲兵隊からは「容器は、適当な場所に埋めておいたので心配はない」と後ほど連絡があった、とのことである〔A3〕。

その他情報

【袖ヶ浦市内における旧軍に接收された教会に係る情報】

- ・元軍医少佐によれば、接收した教会は、丘陵地帯にあり、広大な面積に建物も数棟あったと記している〔A2〕。
- ・戦時中に袖ヶ浦市内に存在した教会関係施設としては、キリスト教系の教育施設がある。この教育施設は、昭和18年12月に千葉県から廃校処分を受け、その後、陸軍士官学校鍛錬隊として、結核患者の保養所に転用された。施設は終戦時まで使用され、戦後に元の教育団体に返還されたとの記載がある〔A4〕。なお、法務局公図により上記に係る範囲が確認された〔A5〕。

【千葉県内における陸軍軍医学校施設に係る情報】

- ・陸軍省の公文書によれば、昭和19年4月6日に千葉県市川市に陸軍軍医学校中山出張所が存在していたとあり、檜葉に関する情報は確認されていない〔A6〕。